

当院の新型コロナウイルスの検査（SmartAmp 法）について

核酸増幅検査（NAT : Nucleic acid Amplification Test）には様々な種類があり、RT-PCR 法、LAMP 法、NEAR 法等があります。テレビや民間業者ではこういった検査方法の違いを区別せずに「PCR 検査」と呼んでいますが、正確には「核酸増幅検査」のことです。「核酸増幅検査」とは得られた検体（新型コロナの場合は鼻汁や唾液）の中に新型コロナウイルスの特徴を持った核酸が無いのか増やして発見を試みる検査です。この「核酸増幅検査」にはいくつかの種類があり、その中の大きな柱として「PCR 法」と「等温核酸増幅法」があります。「PCR 法」を用いた検査方法が RT-PCR 法で、「等温核酸増幅法」を用いた検査方法には LAMP 法以外に複数の方法があり、当院で行っている SmartAmp 法もその一種です。また、健康保険上では RT-PCR 法も含めて全て同じ扱いになります。

SmartAmp 法と PCR 法の違い

PCR は拡散増幅の中でも古典的な手技で、熟練した検査技師が施行すれば検査の感度はとても高いものの、結果が出るまでに時間がかかる（結果は実質翌日）のがデメリットです。

当院で施行している SmartAmp 法は理研が開発した PCR に変わる DNA 増幅技術であり、一定温度で複製が進むので簡便かつ高速な検査が可能です。検体採取から結果報告まで最短 90 分で報告可能であり、検査の精度も RT-PCR 法と比較して同等です。